

中学校数学の移行措置について

※ 現行課程（明朝体（細字）は省略）に新課程のゴシック体（太字）を追加して指導
 ※ 明朝体（細字）の内容に付随する内容の取扱い（内取）は当然適用されない

第1学年（平成21～23年度）

現行課程	新課程
<p>A 数と式</p> <p>(1) 正の数・負の数</p> <p>ア 正の数と負の数の意味</p> <p>イ 正の数と負の数の四則計算の意味と計算</p> <p>(2) 文字を用いた式</p> <p>ア 文字を用いることの意味</p> <p>イ 文字を用いた式における乗法・除法</p> <p>ウ 簡単な一次式の加法・減法</p> <p>(3) 一元一次方程式</p> <p>ア 方程式などの意味</p> <p>イ 等式の性質と方程式</p> <p>ウ 簡単な一元一次方程式の解法と利用</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形</p> <p>ア 線対称、点対称</p> <p>イ 基本的な作図とその利用</p> <p>(2) 空間図形</p> <p>ア 空間における直線や平面の位置関係</p> <p>イ 空間図形の構成や表現 【内取3(4) 投影図は扱わない】</p> <p>ウ 扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体、錐体の表面積と体積</p> <p>C 数量関係</p> <p>(1) 比例、反比例</p> <p>ア 比例・反比例の意味</p> <p>イ 座標の意味</p> <p>ウ 比例・反比例の特徴</p> <p>エ 比例・反比例の活用</p> <p>〔用語・記号〕 変数 変域</p>	<p>A 数と式</p> <p>(1) 正の数・負の数</p> <p>ア 正の数と負の数の必要性和意味</p> <p>イ 正の数と負の数の四則計算の意味</p> <p>ウ 正の数と負の数の四則計算</p> <p>エ 具体的場面における表現や処理 【内取3(1) 数の集合と四則計算の可能性】</p> <p>(2) 文字を用いた式</p> <p>ア 文字を用いることの意味</p> <p>イ 文字を用いた式における乗法・除法</p> <p>ウ 簡単な一次式の加法・減法</p> <p>エ 文字を用いた式による表現や読み取り 【内取3(2) 不等式】</p> <p>(3) 一元一次方程式</p> <p>ア 方程式などの意味</p> <p>イ 等式の性質と方程式</p> <p>ウ 簡単な一元一次方程式の解法と活用 【内取3(3) 簡単な比例式】</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形</p> <p>イ 平行移動、対称移動、回転移動</p> <p>ア 基本的な作図とその活用</p> <p>(2) 空間図形</p> <p>ア 空間における直線や平面の位置関係</p> <p>イ 空間図形の構成や表現 【内取3(5)のうち「投影図」】</p> <p>ウ 扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体、錐体、球の表面積と体積</p> <p>C 関数</p> <p>(1) 比例、反比例</p> <p>ア 関数関係の意味</p> <p>イ 比例・反比例の意味</p> <p>ウ 座標の意味</p> <p>エ 比例・反比例の特徴</p> <p>オ 比例・反比例を用いた具体的な事象の説明</p> <p>〔用語・記号〕 関数 変数 変域</p> <p>D 資料の活用</p> <p>(1) 資料の散らばりと代表値</p> <p>ア ヒストグラムや代表値の必要性和意味</p> <p>イ ヒストグラムや代表値による資料の傾向の把握と表現 【内取3(6) 誤差や近似値、$a \times 10^n$】</p> <p>〔用語・記号〕 平均値 中央値 最頻値 相対度数 範囲 階級</p>

※〔用語・記号〕については、各分野のうち移行措置関係のみ抜粋。

※〔数学的活動〕は新学習指導要領の規定によることも可能。

第2学年 (平成21～23年度)

現行課程	新課程
<p>A 数と式</p> <p>(1) 文字を用いた式の四則計算</p> <p>ア 簡単な整式の加法・減法, 単項式の乗法・除法</p> <p>イ 文字式の利用</p> <p>ウ 目的に応じた式の変形</p> <p>(2) 連立二元一次方程式</p> <p>ア 二元一次方程式とその解の意味</p> <p>イ 連立方程式とその解の意味</p> <p>ウ 連立方程式の解法と利用</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形と平行線の性質</p> <p>ア 平行線や角の性質</p> <p>イ 多角形の角の性質</p> <p>(2) 図形の合同</p> <p>ア 証明の意義と方法</p> <p>イ 三角形の合同条件, 三角形や平行四辺形の性質の論証 (新ではア・ウに分割)</p> <p>ウ 円周角と中心角の関係 [→ H22年度から, 第3学年で指導]</p> <p>C 数量関係</p> <p>(1) 一次関数</p> <p>ア 事象と一次関数</p> <p>イ 一次関数のグラフの特徴と利用</p> <p>ウ 二元一次方程式と関数との関係</p> <p>(2) 確率</p> <p>ア 起こり得る場合</p> <p>イ 確率の意味と求め方</p>	<p>A 数と式</p> <p>(1) 文字を用いた式の四則計算</p> <p>ア 簡単な整式の加法・減法, 単項式の乗法・除法</p> <p>イ 文字式の利用</p> <p>ウ 目的に応じた式の変形</p> <p>(2) 連立二元一次方程式</p> <p>ア 二元一次方程式とその解の意味</p> <p>イ 連立方程式とその解の意味</p> <p>ウ 連立方程式の解法と活用</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形と平行線の性質</p> <p>ア 平行線や角の性質</p> <p>イ 多角形の角の性質</p> <p>(2) 図形の合同</p> <p>イ 証明の必要性和意味及びその方法</p> <p>ア 三角形の合同条件</p> <p>ウ 三角形や平行四辺形の性質の論証</p> <p>C 関数</p> <p>(1) 一次関数</p> <p>ア 事象と一次関数</p> <p>イ 一次関数の特徴</p> <p>ウ 二元一次方程式と関数との関係</p> <p>エ 一次関数を用いた具体的な事象の説明</p> <p>D 資料の活用</p> <p>(1) 確率</p> <p>ア 確率の意味と求め方</p> <p>イ 確率を用いた不確定な事象の説明</p>

※〔数学的活動〕は新学習指導要領の規定によることも可能。

第3学年 (平成22・23年度)

現行課程	新課程
<p>A 数と式</p> <p>(1) 平方根</p> <p>ア 数の平方根の必要性和意味</p> <p>イ 数の平方根を含む式の計算</p> <p>(2) 式の展開と因数分解</p> <p>ア 単項式と多項式の乗法, 多項式を単項式で割る除法</p> <p>イ 簡単な一次式の乗法, 簡単な式の展開や因数分解</p> <p>(3) 二次方程式</p> <p>ア 二次方程式の必要性和解の意味</p> <p>イ 簡単な二次方程式の解法と利用</p> <p>【内取3(4)のうち「xの係数が偶数である簡単な例で, 平方の形に変形して解く方法は知ることにとどめる」及び「解の公式は取り扱わない」】</p> <p>〔用語・記号〕 根号 素数 因数 $\sqrt{\quad}$</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 図形の相似</p> <p>ア 図形の相似の意味, 三角形の相似条件を用いた図形の性質の論証(新ではア・イに分割)</p> <p>イ 平行線と線分の比</p> <p>ウ 相似の考えの活用</p> <p>(2) 三平方の定理</p> <p>ア 三平方の定理の証明</p> <p>イ 三平方の定理の意味と利用</p> <p>C 数量関係</p> <p>(1) 関数$y=ax^2$</p> <p>ア 事象と関数$y=ax^2$</p> <p>イ 関数$y=ax^2$のグラフの特徴と関数のとる値の変化の割合</p>	<p>A 数と式</p> <p>(1) 平方根</p> <p>ア 数の平方根の必要性和意味</p> <p>イ 数の平方根を含む式の計算</p> <p>ウ 具体的な場面での平方根を用いた処理</p> <p>(2) 式の展開と因数分解</p> <p>ア 単項式と多項式の乗法, 多項式を単項式で割る除法</p> <p>イ 簡単な一次式の乗法, 簡単な式の展開や因数分解</p> <p>ウ 文字を用いた式による数量関係の説明</p> <p>(3) 二次方程式</p> <p>ア 二次方程式の必要性和解の意味</p> <p>イ 因数分解や平方の形に変形することによる二次方程式の解法</p> <p>【内取3(3)のうち「平方して解くことの指導では係数が偶数であるものを中心とする」】</p> <p>ウ 解の公式を用いた二次方程式の解法</p> <p>エ 二次方程式の活用</p> <p>〔用語・記号〕 根号 有理数 無理数 因数 $\sqrt{\quad}$</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 図形の相似</p> <p>ア 図形の相似の意味, 三角形の相似条件</p> <p>イ 三角形の相似条件を用いた図形の性質の論証</p> <p>ウ 平行線と線分の比</p> <p>エ 相似な図形の面積比と体積比</p> <p>オ 相似な図形の性質の活用</p> <p>(2) 円周角と中心角の関係</p> <p>ア 円周角と中心角の関係の意味と証明</p> <p>イ 円周角と中心角の関係の活用</p> <p>【内取3(4) 円周角の定理の逆】 〔→(2)は, 現行第2学年から移行。但し「円周角の定理の逆」は追加。〕</p> <p>(3) 三平方の定理</p> <p>ア 三平方の定理の意味と証明</p> <p>イ 三平方の定理の活用</p> <p>C 関数</p> <p>(1) 関数$y=ax^2$</p> <p>ア 事象と関数$y=ax^2$</p> <p>イ 関数$y=ax^2$の特徴</p> <p>ウ 関数$y=ax^2$を用いた具体的な事象の説明</p> <p>エ いろいろな事象と関数</p> <p>D 資料の活用</p> <p>(1) 標本調査</p> <p>ア 標本調査の必要性和意味</p> <p>イ 標本調査による母集団の傾向の説明</p> <p>〔用語・記号〕 全数調査</p>

※〔用語・記号〕については, 各分野のうち移行措置関係のみ抜粋。

※〔数学的活動〕は新学習指導要領の規定によることも可能。

中学校理科の移行措置について

※ 現行課程（明朝体（細字）は省略）に新課程のゴシック体（太字）を追加して指導
 ※ 明朝体（細字）の内容に付随する内容の取扱い（内取）は当然適用されない

第1学年（平成21～23年度）

	現行課程	新課程
第1分野	<p>(1) 身近な物理現象</p> <p>ア 光と音</p> <p>(7) 光の反射・屈折</p> <p>(4) 凸レンズの働き</p> <p>(9) 音の性質</p> <p>イ 力と圧力</p> <p>(7) 力の働きと力のつり合い 【→ 後半は第3学年の(5)ア(7)に移行】</p> <p>(4) 圧力 【内取3(2)オ 水圧は扱わない】</p> <p>(2) 身の回りの物質</p> <p>ア 物質のすがた</p> <p>(7) 物質のすがた 【内取3(3)アのうち「密度」に関する部分】</p> <p>(4) 状態変化と体積変化</p> <p>(9) 気体の発生と性質</p> <p>イ 水溶液</p> <p>(7) 水溶液</p> <p>(4) 酸・アルカリ・中和 【→ H23の移行措置で第3学年で指導】</p>	<p>(1) 身近な物理現象</p> <p>ア 光と音</p> <p>(7) 光の反射・屈折</p> <p>(4) 凸レンズの働き</p> <p>(9) 音の性質</p> <p>イ 力と圧力</p> <p>(7) 力の働き 【内取3(2)エ 力とばねの伸び、重さと質量の違い】</p> <p>(4) 圧力（水圧を含む） 【内取3(2)オ 水圧、浮力】</p> <p>(2) 身の回りの物質</p> <p>ア 物質のすがた</p> <p>(7) 身の回りの物質とその性質 【内取3(3)アのうち「代表的なプラスチックの性質」】</p> <p>ウ 状態変化</p> <p>(7) 状態変化と熱 【内取3(3)オ 粒子のモデル、粒子の運動】</p> <p>(4) 物質の融点と沸点</p> <p>ア 物質のすがた</p> <p>(4) 気体の発生と性質</p> <p>イ 水溶液</p> <p>(7) 物質の溶解</p> <p>(4) 溶解度と再結晶 【内取3(3)ウ 粒子のモデル、質量パーセント濃度】</p>
第2分野	<p>(1) 植物の生活と種類</p> <p>ア 生物の観察</p> <p>イ 植物の体のつくりと働き</p> <p>(7) 花のつくりと働き</p> <p>(4) 葉・茎・根のつくりと働き</p> <p>ウ 植物の仲間</p> <p>(7) 種子植物の仲間</p> <p>(2) 大地の変化</p> <p>ア 地層と過去の様子</p> <p>イ 火山と地震</p> <p>(7) 火山活動と火成岩 【内取3(3)イ 火山岩・深成岩は各1種類】</p> <p>(4) 地震の伝わり方と地球内部の働き</p>	<p>(1) 植物の生活と種類</p> <p>ア 生物の観察</p> <p>イ 植物の体のつくりと働き</p> <p>(7) 花のつくりと働き</p> <p>(4) 葉・茎・根のつくりと働き</p> <p>ウ 植物の仲間</p> <p>(7) 種子植物の仲間</p> <p>(4) 種子をつくらない植物の仲間 【内取3(2)エ シダ植物やコケ植物が胞子をつくること】</p> <p>(2) 大地の成り立ちと変化</p> <p>イ 地層の重なりと過去の様子 【内取3(3)ウのうち「断層、褶曲」】</p> <p>ア 火山と地震</p> <p>(7) 火山活動と火成岩 【内取3(3)アのうち「火山岩及び深成岩は代表的な岩石を扱う」】</p> <p>(4) 地震の伝わり方と地球内部の働き</p>

※ 現行課程では、両分野とも現行の内取3(1)で指導順序を規定しているが、新課程では当該規定は削除。このため、移行期間中においても両分野とも現行の内取3(1)は適用除外とする。(以下同じ)

	現行課程	新課程
第1分野	<p>(3) 電流とその利用</p> <p>ア 電流</p> <p>(7) 静電気と電流</p> <p>(4) 回路と電流・電圧</p> <p>(ウ) 電流・電圧と抵抗</p> <p>イ 電流の利用</p> <p>(7) 電流と磁界</p> <p>(4) 磁界中の電流が受ける力</p> <p>(ウ) 電気と光・熱</p> <p>【内取3(4)オ 電力量の概念は扱わない。定量的な扱いはしない。】</p> <p>(4) 化学変化と原子・分子</p> <p>ア 物質の成り立ち</p> <p>(7) 物質の分解</p> <p>(4) 原子・分子</p> <p>イ 化学変化と物質の質量</p> <p>(7) 化合と化学反応式</p> <p>(4) 化学変化と物質の質量</p>	<p>(3) 電流とその利用</p> <p>ア 電流</p> <p>(エ) 静電気と電流 【内取3(4)エ 電流が電子の流れであること】</p> <p>(7) 回路と電流・電圧</p> <p>(4) 電流・電圧と抵抗</p> <p>(ウ) 電気とそのエネルギー</p> <p>【内取3(4)ウ 電力量, 熱量】</p> <p>イ 電流と磁界</p> <p>(7) 電流がつくる磁界</p> <p>(4) 磁界中の電流が受ける力</p> <p>(ウ) 電磁誘導と発電 (このうち「直流と交流の違い」)</p> <p>(4) 化学変化と原子・分子</p> <p>ア 物質の成り立ち</p> <p>(7) 物質の分解</p> <p>(4) 原子・分子</p> <p>イ 化学変化</p> <p>(7) 化合</p> <p>(4) 酸化と還元 【→現行(6)アから移行】 【内取3(5)簡単なものを扱う】</p> <p>(ウ) 化学変化と熱 【→現行(6)アから移行】</p> <p>ウ 化学変化と物質の質量</p> <p>(7) 化学変化と質量の保存</p> <p>(4) 質量変化の規則性</p>
第2分野	<p>(3) 動物の生活と種類</p> <p>ア 動物の体のつくりと働き</p> <p>(7) 動物の体とつくりの働きの観察</p> <p>(4) 刺激と反応</p> <p>(ウ) 生命を維持する働き</p> <p>イ 動物の仲間</p> <p>(7) 動物の仲間</p> <p>(4) 天気とその変化</p> <p>ア 気象観測</p> <p>イ 天気の変化</p> <p>(7) 霧や雲の発生</p> <p>(4) 前線の通過と天気の変化</p>	<p>(3) 動物の生活と生物の変遷</p> <p>ア 生物と細胞</p> <p>イ 動物の体のつくりと働き</p> <p>(4) 刺激と反応</p> <p>(7) 生命を維持する働き</p> <p>ウ 動物の仲間</p> <p>(7) 脊椎動物の仲間 【内取3(4)ウ 脊椎動物の体の表面の違い等】</p> <p>(4) 無脊椎動物の仲間 【内取3(4)エ 節足動物や軟体動物の観察と脊椎動物との比較】</p> <p>エ 生物の変遷と進化 【内取3(4)オ 進化の証拠や具体例, 生息環境での生活に都合のよい特徴】</p> <p>(4) 気象とその変化</p> <p>ア 気象観測</p> <p>イ 天気の変化</p> <p>(7) 霧や雲の発生 【内取3(5)アのうち「水の循環」】</p> <p>(4) 前線の通過と天気の変化</p> <p>ウ 日本の気象</p> <p>(7) 日本の天気の特徴</p> <p>(4) 大気の動きと海洋の影響 【内取3(5)ウ 大気の動き, 地球の大きさや大気の厚さ】</p>

第3学年 (平成21・22年度)

	現行課程	新課程
第1分野	<p>(5) 運動の規則性 ア 運動の規則性</p> <p>(7) 運動の速さと向き (4) 力と運動</p> <p>(ウ) エネルギーの変換と保存</p> <p>(6) 物質と化学反応の利用 ア 物質と化学反応の利用 (7) 酸化と還元</p> <p>(4) 化学変化とエネルギー 【内取3(7)イのうち「イオンを扱わない」】</p> <p>(7) 科学技術と人間 ア エネルギー資源</p> <p>(7) エネルギー資源 イ 科学技術と人間(2分野との選択)</p>	<p>(5) 運動とエネルギー ア 運動の規則性 (7) 力のつり合い</p> <p>(4) 運動の速さと向き (ウ) 力と運動</p> <p>イ 力学的エネルギー (7) 仕事とエネルギー 【内取3(6)ウ 仕事の原理】 (4) 力学的エネルギーの保存</p> <p>(6) 化学変化とイオン</p> <p>ア 水溶液とイオン (7) 水溶液の電気伝導性 (4) 原子の成り立ちとイオン 【内取3(7)ア 電子と原子核, 陽子, 中性子, イオン式】</p> <p>(ウ) 化学変化と電池 【内取3(7)イのうち「電極で起こる反応を中心に扱う」】</p> <p>イ 酸・アルカリとイオン (7) 酸・アルカリ (4) 中和と塩</p> <p>(7) 科学技術と人間 ア エネルギー (7) 様々なエネルギーとその変換 (4) エネルギー資源</p> <p>イ 科学技術の発展 ウ 自然環境の保全と科学技術の利用</p>
第2分野	<p>(5) 生物の細胞と生殖 ア 生物と細胞 (7) 植物と動物の細胞の特徴</p> <p>(4) 細胞分裂と生物の成長 イ 生物の殖え方 (7) 生物の殖え方</p> <p>(6) 地球と宇宙 ア 天体の動きと地球の自転・公転 (7) 日周運動と自転 (4) 年周運動と公転 イ 太陽系と惑星 (7) 太陽系と惑星, 恒星</p> <p>(7) 自然と人間 ア 自然と環境 (7) 自然界のつり合い (4) 自然環境の調査と環境 イ 自然と人間(1分野との選択)</p>	<p>(5) 生命の連続性 ア 生物の成長と殖え方</p> <p>(7) 細胞分裂と生物の成長</p> <p>(4) 生物の殖え方 イ 遺伝の規則性と遺伝子 【内取3(6)ウ 分離の法則, 遺伝子の変化による形質の変化, 遺伝子の本体はDNAであること】</p> <p>(6) 地球と宇宙 ア 天体の動きと地球の自転・公転 (7) 日周運動と自転 (4) 年周運動と公転 イ 太陽系と恒星 (7) 太陽の様子 (ウ) 惑星と恒星 (4) 月の運動と見え方 【内取3(7)ウ 日食や月食】</p> <p>(7) 自然と人間 ア 生物と環境 (7) 自然界のつり合い (4) 自然環境の調査と環境保全 イ 自然の恵みと災害 ウ 自然環境の保全と科学技術の利用</p>

	現行課程	新課程
第1分野	<p>(5) 運動の規則性 ア 運動の規則性</p> <p>(7) 運動の速さと向き (4) 力と運動</p> <p>(ウ) エネルギーの変換と保存 [→ 新課程では、力学的エネルギーは(5)イ, それ以外は(7)ア(7)に分割]</p> <p>(6) 物質と化学反応の利用 ア 物質と化学反応の利用 (7) 酸化と還元 [→ H22の移行措置で第2学年で指導済]</p> <p>(4) 化学変化とエネルギー 【内取3(7)イのうち「イオンを扱わない」】 [→ H22の移行措置で第2学年で指導済]</p> <p>(7) 科学技術と人間 ア エネルギー資源</p> <p>(7) エネルギー資源</p> <p>イ 科学技術と人間 (2分野との選択)</p>	<p>(5) 運動とエネルギー ア 運動の規則性 <u>(7) 力のつり合い</u> [→ 現行(1)イ(7)から一部移行]</p> <p>(4) 運動の速さと向き (ウ) 力と運動</p> <p>イ 力学的エネルギー (7) 仕事とエネルギー 【内取3(6)ウ 仕事の原理】 <u>(4) 力学的エネルギーの保存</u> 【内取3(6)エ 摩擦】</p> <p>(6) 化学変化とイオン</p> <p>ア 水溶液とイオン (7) 水溶液の電気伝導性 (4) 原子の成り立ちとイオン 【内取3(7)ア 電子と原子核, 陽子, 中性子, イオン式】</p> <p>(ウ) 化学変化と電池 【内取3(7)イ 電極で起こる反応を中心に扱う, 日常生活等で利用される代表的な電池】</p> <p>イ <u>酸・アルカリとイオン</u> (7) <u>酸・アルカリ</u> (4) <u>中和と塩</u> 【内取3(7)ウ pH】 【内取3(7)エ 水に溶ける(溶けない)塩】</p> <p>(7) 科学技術と人間 ア エネルギー (7) <u>様々なエネルギーとその変換</u> 【内取3(8)ア 熱の伝わり方, エネルギーの総量保存及び変換効率】</p> <p>(4) エネルギー資源 【内取3(8)イ 放射線の性質と利用】</p> <p>イ <u>科学技術の発展</u> ウ <u>自然環境の保全と科学技術の利用</u> 【内取3(8)ウ 2分野と総合的に扱う】</p>
第2分野	<p>(5) 生物の細胞と生殖 ア 生物と細胞 (7) 植物と動物の細胞の特徴 [→ H22の移行措置で第2学年で指導済]</p> <p>(4) 細胞分裂と生物の成長</p> <p>イ 生物の殖え方 (7) 生物の殖え方</p>	<p>(5) 生命の連続性 ア 生物の成長と殖え方</p> <p>(7) 細胞分裂と生物の成長</p> <p>(4) 生物の殖え方</p> <p>イ 遺伝の規則性と遺伝子 【内取3(6)ウ 分離の法則, 遺伝子の変化による形質の変化, 遺伝子の本体はDNAであること】</p>

<p>(6) 地球と宇宙 ア 天体の動きと地球の自転・公転 (7) 日周運動と自転 (1) 年周運動と公転</p> <p>イ 太陽系と惑星 (7) 太陽系と惑星, 恒星</p> <p>(7) 自然と人間 ア 自然と環境 (7) 自然界のつり合い (1) 自然環境の調査と環境 イ 自然と人間 (1分野との選択)</p>	<p>(6) 地球と宇宙 ア 天体の動きと地球の自転・公転 (7) 日周運動と自転 (1) 年周運動と公転</p> <p>イ 太陽系と恒星 (7) 太陽の様子 (7) 惑星と恒星 (1) 月の運動と見え方 【内取3(7)ウ 日食や月食】</p> <p>(7) 自然と人間 ア 生物と環境 (7) 自然界のつり合い (1) 自然環境の調査と環境保全 イ 自然の恵みと災害 【内取3(8)ウ 地球規模でのプレートの動き, 地域の災害】</p> <p>ウ 自然環境の保全と科学技術の利用 【内取3(8)エ 1分野と総合的に扱う】</p>
---	--